

ドローンに生徒興味津々

天竜高 林業への活用へ特別授業



演習林でドローンを飛ばす様子を見学する生徒ら＝浜松市天竜区山東で

らこう使わつというアイデアを出してほしい」と生徒に呼び掛けた。

ドローンを初めて目にする生徒が大半で、田村講師らが四つのプロペラを備えた機体を飛ばし、撮影した森林の画像をモニターで紹介した。画像は授業や学科の取り組み紹介に活用する。

静岡市葵区梅ヶ島の実家が林業という森林科の鈴木崇元さん(18)は「実家の斜面も急で作業が進まない。ドローンが使えたら能率が上がるのでは」と興味津々だった。

同校はドローン購入を検討中で、教諭の研究も実施して来年度から本格的な授業の力りキュラムに導入したい考え。新産業創出の一環で独自のドローン開発を進める官民の動きもあり、増田教授は防災や農業、物流システム改善にも応用を見込み、県内の高校と連携を進める。

(島将之)

天竜高校(浜松市天竜区)は十四日、林業の授業での小型無人機「ドローン」導入に向けた特別授業を同校の演習林で開いた。航空・宇宙分野で活躍する県内の人材育成を

目指す静岡理工科大の若い世代に参加してもらう態勢づくりにつなげようと、増田教授らと高校が企画。森林科と環境科の二年生二十五人が参加した。同大の田村博特任講師がドローンの特性

や飛行のルールを紹介した。増田教授はドローンで上空から作業場の安全確認、木の生育状況の観察、野生鳥獣の生息域の把握といった活用が見込まれると説明し「自分だった